

に4階と5階が通常の男湯・女湯になっています。
この福祉型家族風呂は、2015年のリニューアルの時に地域貢献の一環として、介助が必要だけども家のお風呂では入りにくい高齢の方たちのために、家族も安心して一緒に入れるようにと作られたものです。なので今でも利用されるのは高齢者が多いとのこと。
それだけではなく、観光客の方も多く全国各地からお客さんが来るそうです。鹿児島、はてはフランスまで（グローバル！）。地域貢献からはじまったお風呂が思わぬ広がりを見せています。
🌊なんと温泉が湧いている！
さて、福祉型家族風呂ののれんをくぐ

いざ行かん バリアフリー 銭湯へ

つてみると、まず入って正面には寝転がれるほど余裕のあるベンチ、右手にはトイレがありました。浴室の入り口付近には洗面台もあって、車いすに乗ったままでも使いやすい高さになっています。介助する人も、される人も使いやすい空間が広がっています。
浴室に入ると木のいい香りが！湯舟と壁にはヒノキが使われています。シャワーとカランは2つずつ、湯舟も2つあって、家族や介助者が一緒に浸かれるようになっていきます。いすは濡れても大丈夫な車いすタイプのもので、木製の座位部分が回転・前後するのですが用意されていました。そのほかには、いすに座らなくても使えるようにすべり止めの効いたマットもありました。天井は高く、圧迫



浴室。手前の湯舟に入る。奥は介助者用の湯舟



福祉型家族風呂の入り口。車いすのまま入ることができる

そうだ、 銭湯に行こう

銭湯はいつだって地域とともにありました。家のお風呂もいいけれど、まちのお風呂屋さんこと、銭湯に足を運んでみませんか？ 銭湯の魅力はいろいろあります。障害のある人たちと銭湯の関係に目を向けてみたとき、これまで知らなかった世界が見えてきました。そんな銭湯の奥深き世界へようこそ🌊



連日35度を超す8月上旬、バリアフリー対応の銭湯があると聞きつけて東京・墨田区にある「御谷湯」にやってきました。一緒に行ったのは埼玉肢障協の小泉信之さん。取材1週間前には電話で「行くのは銭湯じゃなきゃだめなんですか？ 暑いから別のところに…」「いえ、そういう（銭湯）特集なんで…お願いします！」というやりとりを経て当日を迎えました。
🌊フランスからお客さんが来る銭湯！
御谷湯は錦糸町駅からバスに乗り継いで15分ほどのところにあります。なんとも言わなくてもサッとスロープを出し、車いすの昇降をしてくれる都営バスの運転手さんが頼もしかったです。
御谷湯に到着！ 5階建ての立派な建物がそびえたっています。御谷湯は創業72年。なんと終戦の2年後というたいへんな時に開業した歴史ある町のお風呂屋さんです。
玄関で車いすの車輪を拭き、「そのままどうぞ」と中へ案内されます。車いすのまま中に入るのがうれしいです。目的のバリアフリーのお風呂とは1階にある「福祉型家族風呂」のこと（ちなみ